

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3147431号  
(U3147431)

(45) 発行日 平成20年12月25日 (2008.12.25)

(24) 登録日 平成20年12月3日 (2008.12.3)

(51) Int.Cl.

A 6 1 G 1/00 (2006.01)

F 1

A 6 1 G 1/00 5 0 2

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2008-7294 (U2008-7294)  
 (22) 出願日 平成20年10月17日 (2008.10.17)

(73) 実用新案権者 307000178  
 三田 真理子  
 広島県広島市安佐北区倉掛2丁目39-1  
 9  
 (72) 考案者 三田 真理子  
 広島市安佐北区倉掛2-39-19

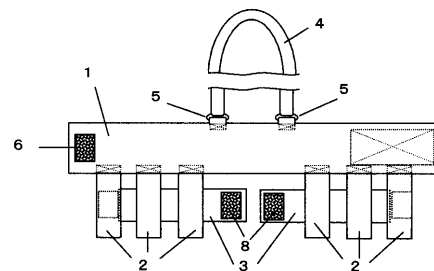
(54) 【考案の名称】 介護用ベルト

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】寝たきり老人のような患者の移動をする時、看護師や介護者の負担を頗る軽減させると同時に、要介護者が苦痛と思う股間が痛くない介護用ベルトを提供する。

【解決手段】上記介護用ベルトは、腰・臀部平布1、大腿部平布の保持体2、大腿部平布3、吊り上げベルト4の4つの部品から構成される。大腿部平布の保持体2は、大腿部平布3が挿通するように、腰・臀部平布1に縫着する。大腿部平布3はそれぞれ両端の大腿部平布の保持体2に縫着し、大腿部平布3は、他のそれぞれの大腿部平布の保持体2を挿通する。大腿部平布3には、吊り上げベルト長さ調節具5が付いた吊り上げベルト4を縫着する。

【選択図】 図1



**【実用新案登録請求の範囲】****【請求項 1】**

腰部及び殿部に当てる広幅の腰・臀部平布を有することを特徴とする介護用ベルト。

**【請求項 2】**

紐が股間に食い込むことを防止するための大腿部平布を有することを特徴とする請求項 1 に記載の介護用ベルト。

**【請求項 3】**

介護者の介護を軽減するために背中にまわるような吊り上げベルトを有することを特徴とした請求項 1 又は 2 に記載の介護用ベルト。

**【請求項 4】**

上記吊り上げベルトには、長さ調節具を有することを特徴とした請求項 1 ～ 3 のいずれか一つに記載の介護用ベルト。

**【考案の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本考案は、身体の動作が不自由である人を介護する者がその動作を補助する際に、効果的に補助することのできる形状を有する介護用ベルトに関するものである。

**【背景技術】****【0002】**

従来、病人や身体 of いずれかにハンディを持っていて、起き上がる、座る、歩く等の日常の動作に不自由を感じている人たちには、介護する者が付き添って、その日常の動作が円滑になされるように補助する必要がある。

**【0003】**

また、要介護者には、骨が折れやすくなっていたり、皮膚や筋肉が弱くなっている者もあり、要介護者の安全を確保しつつ体重を支えて動作を補助する作業は、重労働であり、神経を使うものであった。

**【0004】**

従来、これらの人達の介護をする場合、介護者が介護を要する者の身体の一部を持ち上げるか、着ている衣服を掴んで持ち上げて行っていた。しかし、これらの作業は、要介護者によって身体的特徴および衣服の種類が異なり、さらに季節により衣服の量、形状、生地 of 強度も異なるため、要介護者の安全を確保しつつ、かつ介護者が効果的に力を使うのに支障があった。

**【0005】**

先行技術としては、特開平 11-155913 公報などが知られている。

**【特許文献 1】** 特開平 11-155913 公報**【考案の開示】****【考案が解決しようとする課題】****【0006】**

上記問題を解決すべく、従来 of 問題点に鑑み、要介護者の身体 of 安全を確保しつつ、効果的に、介護者が要介護者の動作を補助する作業(特に要介護者の移動)が円滑に行われるための介護用ベルトを課題とした。

**【0007】**

また、従来介護施設等で使用されている介護用ベルトは、股部にベルトが食い込み、要介護者が傷みを感じていたが、要介護者としては、介護者には言い辛い点があり、我慢を強いられていた。そのことを特に課題として取り上げた。

**【課題を解決するための手段】****【0008】**

本考案は、従来、介護施設などで使用されている介護用を改良したもので、図 1 に示すように、腰部及び殿部に当てる広幅の腰・臀部平布 1 を有することを特徴とする。

【0009】

次に、股間に紐の食い込みを防止するために、左右の大腿部を各々の大腿部平布 3 を両大腿部に巻きつけ、紐が股間に食い込むことを防止することを特徴とした。

【0010】

さらに、介護者が要介護者を抱き上げるときに、腰を痛めたり、手を傷めることを防止するために、介護者の背中にまわるような吊り上げベルト 4 を有することを特徴とした。

【0011】

10

また、その吊り上げベルト 4 には、長さ調節具 5 を有することを特徴とした。

【考案の効果】

【0012】

図 5、図 6、図 7 は、介護者が要介護者を移動している図であるが、前述の図でわかるように、介護者と、要介護者が正面で向き合うため、要介護者には安心感がある。

【0013】

また、図 4 で示すように、両足の大腿部には、大腿部平布 3 がしっかりと巻かれているため、紐が股間に食い込むことがなく、要介護者は股間の痛みを我慢することがなくなった。

【0014】

20

さらに、介護者は、従来は、腰と股間に巻いた紐を手で持ち上げて移動していたため、手や腰を痛めていたが、本考案の介護用ベルトには、肩に掛ける吊り下げベルト 4 を有しているため、手だけで要介護者を持ち上げるのではないため、腰や手を痛めることがなく、

従前より、持ち上げることが容易になった。

【考案を実施するための最良の形態】

【0015】

本考案に係る介護用ベルトについて図面を用いて詳細に説明する。  
本考案の介護用ベルトは、図 1 及び図 2 に示すように、腰・臀部平布 1、大腿部平布の保持体 2、大腿部平布 3、吊り上げベルト 4 の 4 つの部品から構成される。

30

【0016】

大腿部平布の保持体 2 は、図 3 に示すように、大腿部平布 3 が挿通するように、腰・臀部平布 1 に縫着する。

【0017】

また、図 1 及び図 2 に示すように、大腿部平布 3 はそれぞれ両端の大腿部平布の保持体 2 に縫着し、大腿部平布 3 は、他のそれぞれの大腿部平布の保持体 2 を挿通する。

【0018】

さらに、図 1 及び図 2 に示すように、大腿部平布 3 には、吊り上げベルト長さ調節具 5 が付いた吊り上げベルト 4 を縫着する。

【実施例 1】

40

【0019】

次に、本考案の実施例を説明する。

まず、図 4 に示すように、要介護者の腰及び臀部に腰・臀部平布 1 を巻きつけ、面テープ 6、及び面テープ 7 で係止する。

【実施例 2】

【0020】

次に、要介護者の両大腿部に大腿部平布の保持体 2 に挿通された大腿部平布 3 をそれぞれ巻きつけ、面テープ 8 及び面テープ 9 で係止する。

【実施例 3】

【0021】

50

こうして、要介護者に本考案の介護ベルトのセットが終了したら、図 4 に示すよう介護

者の全面にある吊り上げベルト 4 を自分(介護者)の肩部から背中に廻し、要介護者を持ち上げ、移動する。その斜視図は、図 5, 図 6, 図 7 に示す。

【0022】

本考案の腰・臀部平布 1 及び大腿部平布 3, 大腿部平布の保持体 2 の材質は、要介護者の体重を支えるための強度が必要であり、これを満たせば、具体的には材質としては化学繊維、木綿、麻など限定されないが、太デニール紡績糸を用いた厚手の生地や、複数の生地を縫い合わせたキルティング生地、人工皮革、合成樹脂やゴムでコーティングした生地等が好適である。例えば、デニム生地が用いられ得る。

10

【0023】

さらに、吊り上げベルト 4 の材質は、上記材質でもいいが、介護者の肩に食い込む場合があるため、肩部に当る部分には、スポンジなどを縫いこむようにしたほうが好ましい。

言うまでもないが、上記記載の実施するための最良の形態及び実施例についての説明は限定されないことは言うまでもない。

【図面の簡単な説明】

【0024】

【図 1】本考案の介護用ベルトの上面図である。

【図 2】本考案の介護用ベルトの裏面図である。

20

【図 3】図 2 の A-A' の断面図である。

【図 4】本考案の介護用ベルトを要介護者に取り付けた斜視図である。

【図 5】要介護者が背面の斜視図である。

【図 6】介護者が背面の斜視図である。

【図 7】側面の斜視図である。

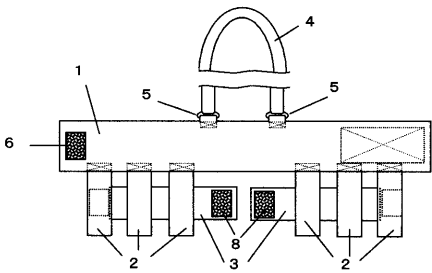
【符号の説明】

【0025】

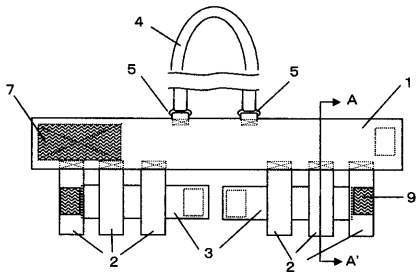
- 1 腰・臀部平布
- 2 大腿部平布 3 の保持体
- 3 大腿部平布
- 4 吊り上げベルト
- 5 吊り上げベルト長さ調節具
- 6 面テープ(雄)
- 7 面テープ(雌)
- 8 面テープ(雄)
- 9 面テープ(雌)
- 100 介護者
- 200 要介護者

30

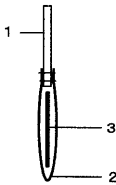
【図 1】



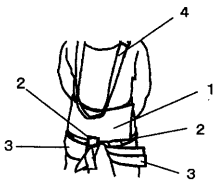
【図 2】



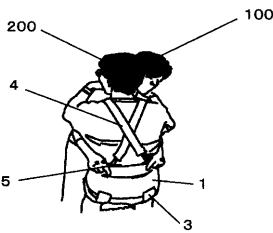
【図 3】



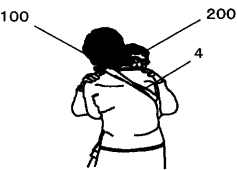
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

